

一人一人に合う形を

医療的ケア児のいま ①

先月10日、秋田市南千代町の県立医療療育センターでオンライン研修会が開かれた。市内で障害児向け福祉サービスを提供する民間事業所の看護師が、人工呼吸器の扱い方を学んだ。指導を担当したのは県医療的ケア児支援センター「コロン」。

コロンは2021年9月に施行された医療的ケア児支援法に基づき、県が昨年4月に開設した。全員の支援拠点として、医療的ケア児と家族の相談対応や関係機関への助言、人材育成を担う。

開設から10カ月。地域で支援に当たる福祉事業所などへの研修や、市町村への説明に取り組んできた。ただ、豊野科長と小田内ら関係者からは「県民の理解や関心はまだ低い」と声をそろえる。「自分たちの地域にもいる」と知ってもらったための啓発から始める必要性を感じているという。

豊野科長は「保護者が希望し、本人の健康面に問題がなければ受け入れる、という県外自治体は増えている。その現状を知ってほしい」と訴える。横浜市は受け入れ推進に向けてガイドラインを策定。青森県は、受け入れ可能な保育所の情報をホームページに掲載している。

県内でも支援の必要性を認識し動いている市町村や、「どうすれば受け入れられるか」と検討し始めた市町村がある。一方

で、「医療的ケアが必要な無理」と最初から断るケースもまだにある。「子どもの状態はそれぞれ違う。一人一人を見て支援の在り方を考える必要がある」と小田内センター長。コロンで市町村や保育所学校をサポートし、受け入れを少しずつでも広げたいとする。

医療的ケア児は住み慣れた地域で保育所や学校に通う「当たり前」ができない、家族が仕事を辞めるといった現状がある。豊野科長は「ケアが必要でも子どもは成長していく。それをみんなで支え合い、喜び合える秋田を目指したい」と話した。(三浦ちひろ)

未来 つなぐ 秋田の子育て

医療分野では支援策の実践に向けた取り組みが進む。県医師会は

「みみみの練習をする楓音さん①、楓音さんの「キッズナラティブ秋田」画面②(いずれも平井香さん提供)

豊野科長は「保護者が希望し、本人の健康面に問題がなければ受け入れる、という県外自治体は増えている。その現状を知ってほしい」と訴える。横浜市は受け入れ推進に向けてガイドラインを策定。青森県は、受け入れ可能な保育所の情報をホームページに掲載している。

豊野科長は「保護者が希望し、本人の健康面に問題がなければ受け入れる、という県外自治体は増えている。その現状を知ってほしい」と訴える。横浜市は受け入れ推進に向けてガイドラインを策定。青森県は、受け入れ可能な保育所の情報をホームページに掲載している。

支援の在り方 関係者が情報共有

一方で、現状では参加する施

「子どもは「写真を付けられるので、支援者に成長の過程を伝えやすい。食事の仕方や薬の情報を記載しておけば、災害時にも活用できる」と期待する

「子どもは「写真を付けられるので、支援者に成長の過程を伝えやすい。食事の仕方や薬の情報を記載しておけば、災害時にも活用できる」と期待する

県医療的ケア児支援センター「コロン」では、医療的ケア児に関する相談を受け付けている。☎018-827-5730 (毎週月一金曜の午前10時～午後3時) 昨年4月には県内初の家族会「まめんちょこクラブ」(佐藤大輔代表)が設立された。問い合わせはメールアドレスmamemchoco@gmail.com



申し込みのQRコード